

学校としゃかん 小学3・4年生におすすめの本 2020.6②

雨のち晴 ^{はれ} 愛蔵版おはなしのろうそく⑦ ^{あいぞうばん}

東京こども図書館 (編・発行)

ある雨の日、ガチョウおくさんの家が雨もりをして大変(たいへん)なことに！

ガチョウおくさんは、すぐにヤギさんに屋根(やね)の修理(しゅうり)を頼(たの)みますが…。

この「おはなしのろうそく⑦」には、「雨のち晴」のほか自分(じぶん)で読んでも、大人(おとな)の人に読んでもらっても楽しい8つのおはなしが入っています。

ふるやのもり こどものとも傑作集 ^{けっさくしゅう}

瀬田 貞二(編集) 出版社:福音館書店

ある夜のこと、どろぼうとオオカミが古い家の中に隠(かく)れていました。古い家には、じいさんとばあさんが住(す)んでおり一頭の子馬を育(そだ)てていたのです。

どろぼうとオオカミは、じいさんとばあさんが育てている子馬をねらっていました。

そんな時、なにも知らないじいさんとばあさんは「この世(よ)で一番こわいものはふるやのもりだ」と話しはじめます。

どろぼうよりも、オオカミよりもこわい、ふるやのもりってなんででしょうか？

雨をよぶ龍 ^{りゅう} 4年にいちどの雨ごい行事 ^{あま ぎょうじ}

秋山 とも子(著) 出版社:童心社

雨がふらない日がつづく、田んぼや畑(はたけ)の作物(さくもつ)が枯(か)れてしまいます。

そこで、ある地域(ちいき)では「雨ごい」をするようになりました。

「雨ごい」とは、雨がふるようにと神様(かみさま)にお願い(ねが)いすることです。

雨ごいのために、竹と麦(むぎ)わらで作られた巨大(きょだい)な龍(長さ36メートル、おもさ3000キロ)を300人もの人々がかつぎ、町をねりあるく様子(ようす)が生き生きと描(えが)かれている絵本です。

